

総合的な探究の時間における「地域ぐるみの水道維持管理支援」(SDGsに関する取組)

北海道富川高等学校 学級数3 (校長 尾崎 慎一)

□ 実践の概要

人口減少が進む中、自治体が、全てのインフラ維持管理をこれまでどおり担っていくことが難しくなりつつあることから、本校の「総合的な探究の時間」において、日高町、北海道立総合研究機構などの外部機関と連携し、地域自律管理型水道に関する調査活動を実施した。

1 実践の目的

人口減少、高齢化、行政の人員や財源の削減が進む中、農村地域の小規模な水供給システムの維持存続に関しては地域の実態に即して具体的で実効性のある対策が求められている。しかし、現状では定期的な水質調査等の安全対策が取られていない場合も多くあり、世代交代が進む中で、地域自律管理型水道の管理図等の施設情報が十分引き継がれていない場合もある。この活動は、SDGsに関連した取組として、「総合的な探究の時間」において地域の自律管理を継続する水道行政に関する活動結果を日高町へ還元し、地域ぐるみの水道維持管理の支援を目的とした。



【水源の水の採取】

2 実践内容

(1) 実施計画

北海道立総合研究機構と日高町と共同で町内にある自律管理型水道の水源で水を採取して、簡易水質検査を行い、北海道立総合研究機構の指導の下、日高町内の自律管理型水道の水道管路図をデジタル化した。その後、上述の活動結果等をまとめ、日高町へ提出した。

(2) 取組の具体

簡易水質検査を行うための水採取は日高町の許可と専門的機関の技術力が必要であることから、日高町及び北海道立総合研究機構からの協力をいただき実施した。現地調査では、日高町から手書きの古い管路図を入手して、北海道立総合研究機構の指導の下、QGISを用いて自律管理型水道の水道管路図をデジタル化した。活動の成果を、関係者及び全校生徒へ発表し、完成した資料等は日高町へ提出した。



【簡易水質検査】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

本取組を、日本水大賞委員会、国土交通省主催の「第25回日本水大賞」に応募し、外部関係機関からの評価を受けることとした。(評価の結果は、「厚生労働大臣賞」を受賞。)

そこでは「こうした成果は水道水質の安全性の確保や市町村内のインフラ維持管理全般に貢献していることは言うまでもない。こうした活動は高校生の、自分たちの活動が地元で役立っているという自信を育てることにつながる。また『水道の町 日高』といった地元住民の誇りにつながっている。地元を誇りをもつということは、地域に新しい流れをもたらす活動と言える」との講評をいただいた。



【第25回日本水大賞表彰式】

(4) 改善後の取組

本取組を、世界へ発信していくことで活動の幅を広げていくという意図のもと、活動内容を英訳して3分程度のYouTube動画にまとめ、「水ユース賞」へ応募した。この活動が一つの契機となり、OECD Education2030「プロジェクト∞無限大 (Project∞Infinity)」への参加につながり、海外の学校と「学校のWell-being」を考える協働の取組へと進展している。

3 実践のポイント

- ・地域の課題解決のための本取組を通して、地域へ貢献したことから、生徒の自己肯定感の向上や、進路意識の高揚につながった。
- ・日高山脈襟裳園定公園の国立公園化に係るシンポジウムに参加後は、生徒の地域の自然環境への意識が高まり、日高町が今後取り組むべき施策を提言する等、本取組を更なる地域貢献につなげようと活動している。